

一般国道7号 きさかた に か ほ 象潟仁賀保道路  
一般国道7号 に か ほ ほんじょう 仁賀保本荘道路

# 1. 事業の目的と概要 (1)

## ○事業の目的

象潟仁賀保道路、仁賀保本荘道路は、日本海沿岸東北自動車道に並行する一般国道の自動車専用道路であり、交流促進を図る高規格幹線道路ネットワークの形成、国道7号の交通混雑の緩和、災害時の緊急輸送道路の確保、高次医療施設へのアクセス向上を目的としている。

## ○計画概要

### 象潟仁賀保道路

起終点	自：秋田県にかほ市象潟町小滝 至：秋田県にかほ市両前寺
延長	13.7km
幅員	12.0m (暫定2車線)
道路規格	第1種第2級
設計速度	100km/h
都市計画決定	平成16年度
事業化	平成17年度
用地着手	平成18年度
工事着手	平成19年度
開通年度	平成27年度 (H27.10)

### 仁賀保本荘道路

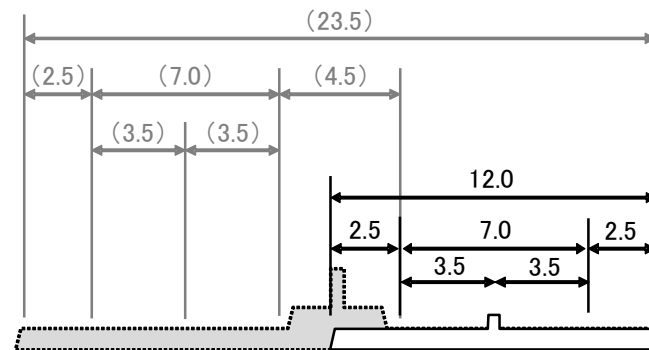
起終点	自：秋田県にかほ市両前寺 至：秋田県由利本荘市二十六木
延長	12.5km
都市計画決定	平成11年度
事業化	平成12年度
用地着手	平成13年度
工事着手	平成14年度
開通年度	平成24年度 (H24.10)

※幅員、道路規格、設計速度は象潟仁賀保道路に同じ

位置図

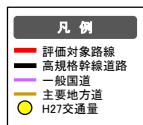
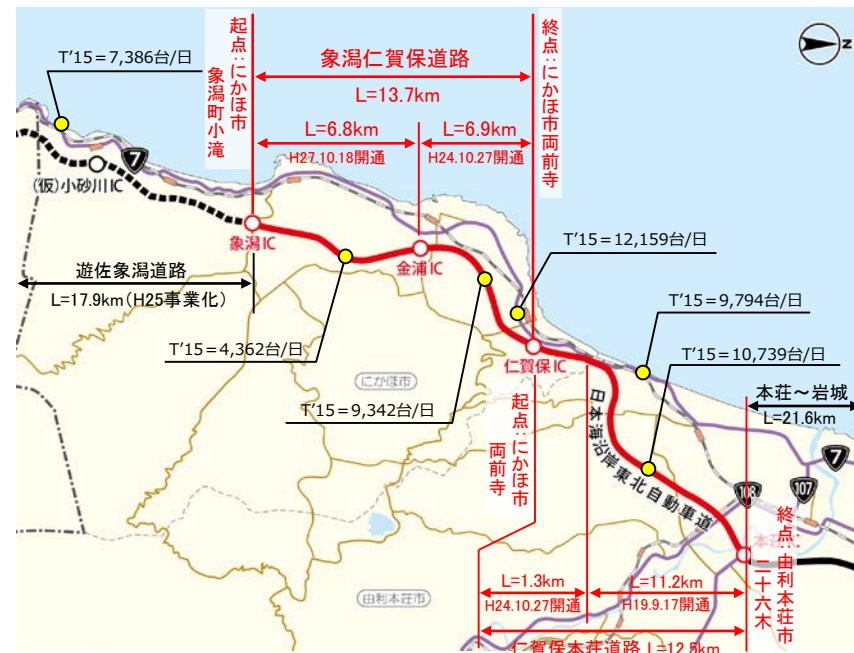


標準横断面図

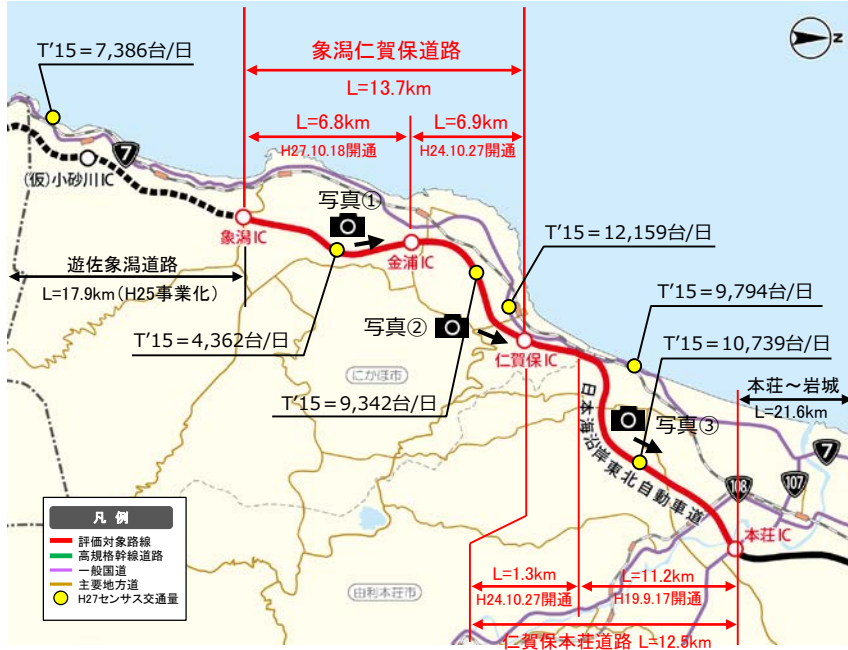


【単位:m】  
※ ( ) は完成時

平面図



# 1. 事業の目的と概要 (2) 整備状況



【写真①】開通後 (象潟仁賀保道路本線)



【写真②】開通後 (仁賀保IC付近)



【写真③】開通後 (仁賀保本荘道路本線)



# 1. 事業の目的と概要 (3) 開通記事

## 日東道 金浦―象潟開通効果

### 観光地へアクセス向上

#### 国道7号、交通量2割減

国土交通省秋田河川国道事務所「浦インターチェンジ（IC）」業務所は10月に開通した日本海―象潟IC間の開通後の交通東北自動車道（日東道）の金二状況をまとめた。並行する国道7号の交通量は約2割減った。

金浦IC―象潟IC間は6.8キロメートルで10月18日に開通した。国道事務所によれば、並行する国道7号の24時間交通量は、開通前の1万5400台（2014年10月22日）から3500台減り、開通後（15日）は約半減した。10月18日に開通した日東道象潟ICと国道の交差点部

10月27日）は1万1900台。同区間の日東道と国道7号を合わせた全体の交通量は400台増え、1万5800台となった。このうち3900台が日東道を利用した。観光面では、秋田空港から鳥海山5合目の峠立に向かう鳥海ブルーラインまでの所要時間が開通前より7分短縮、約1時間で行けるようになった。観光客のアンケートからは、獅子アノ島温泉を抱える中島台レクリエーションの森の滞在時間が増えたという声があった。

国道事務所は「鳥海山の観光シーズンはピークを過ぎたが、アクセス向上で来春以降の誘客が期待できる。今後整備効果も十分発揮するため、早期の全線開通を図りたい」としている。

（小松田直嗣）

出典：秋田魁新報（H27.12.4）

## 県由利本荘にかほ連携

### 広域観光、動き本格化

県と由利本荘、にかほ両市が2014年度から3年計画で進めている「鳥海山を核とした広域観光圏プロジェクト」が本格的に動き出す。15年度当初予算案に由利本荘市、周遊バスを利用したアクセス構築や既存施設のリニューアルなど1億8000万円、にかほ市は市観光拠点センター（仮称）整備事業に4億3770万円をそれぞれ計上。二者が連携し、鳥海山周辺の広域観光を強化することで交流人口拡大を目指す。

プロジェクトは県と市町村が財源を負担し、マスコロバス（約2500万円）を購入し、地域活性化に取り組み、未来への協働プロジェクトに据える事業。道にバスの運行委託料、経費は約1億9千万円。このうち、4億円をバス事業に参入する。矢島駅から先の交通手段が交付する。

由利本荘市は28人乗りマスコロバスを約2500万円を購入し、第三セクター「由利高原鉄道」に運行委託。経費は約1億9千万円。このうち、4億円をバス事業に参入する。矢島駅から先の交通手段が交付する。

### 15年度 施設、アクセス整備へ

あり、15年度中に事業免許を国土交通省に申請予定。今年5月までは、事業参入に向けた準備を整え、専門スタッフの配置や運転手募集などを進めていく。市は今年11月までをめぐり、矢島駅に車庫も建設する。

また、休止中の休憩施設「月」が重点道の駅に指定された「象潟」の観光客増加を狙い、物産センターを併設し、15年度の営業が可能拠点センターが実現する。16年4月の開業を目指す。

本格的に事業が動き始めることについて、県地

出典：秋田魁新報（H27.3.2）

## TDK2工場完成

### 由利本荘にかほ 国内新設8年ぶり

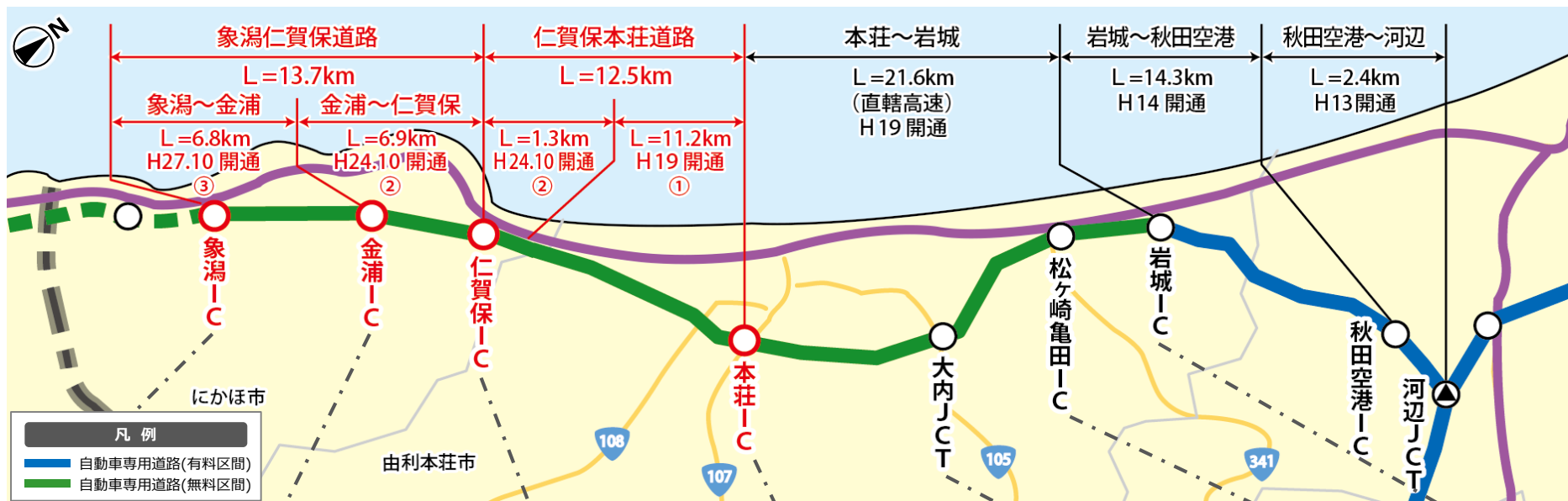
TDKが秋田県由利本荘市にかほに建設した国内新設工場が10月18日に完成した。TDKは国内新設工場を8年ぶりに建設した。工場は約10万平方メートルで、半導体製造用の設備が完備されている。TDKは、この工場を「TDK Group EVS事業」の拠点として活用する。工場は、TDKのEV事業を推進するための重要な役割を果たす。TDKは、この工場を「TDK Group EVS事業」の拠点として活用する。工場は、TDKのEV事業を推進するための重要な役割を果たす。

TDKは、この工場を「TDK Group EVS事業」の拠点として活用する。工場は、TDKのEV事業を推進するための重要な役割を果たす。TDKは、この工場を「TDK Group EVS事業」の拠点として活用する。工場は、TDKのEV事業を推進するための重要な役割を果たす。

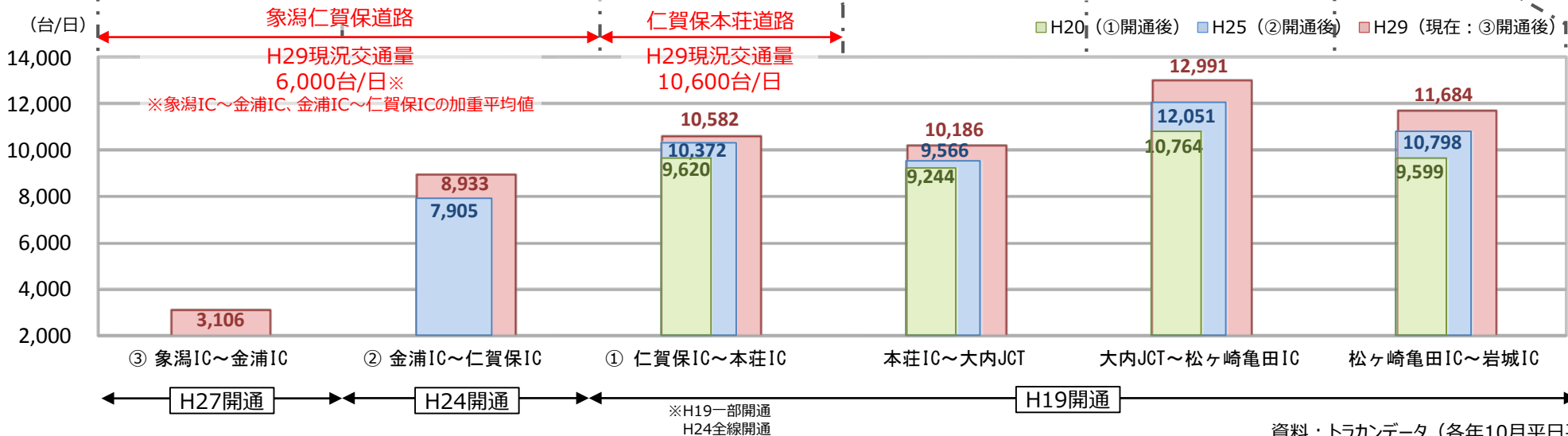
出典：秋田魁新報（H28.10.7）

## 2. 利用状況の変化（交通量）

◆象潟仁賀保道路、仁賀保本荘道路の段階的開通により、都度日沿道の交通量が増加している状況。



▼日沿道の開通に伴う区間別の交通量の変化



資料：トラカンデータ（各年10月平日平均）

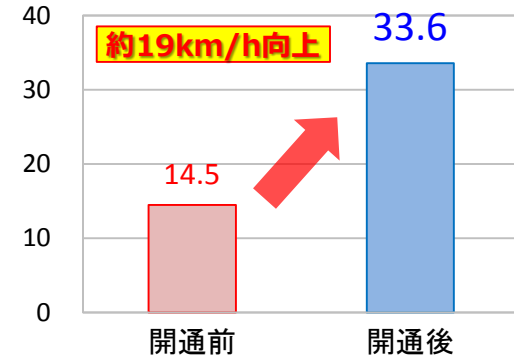
### 3. 事業効果の発現状況 (1) 混雑緩和

- ◆にかほ市の市街地を通過する国道7号には、主要渋滞箇所が2箇所存在。
- ◆象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路の開通により現道の混雑が緩和。（主要渋滞箇所2箇所の特定解除）



きさかたえきまえ  
象潟駅前交差点

▼開通前後のピーク時下り方面進入速度の変化 (km/h)



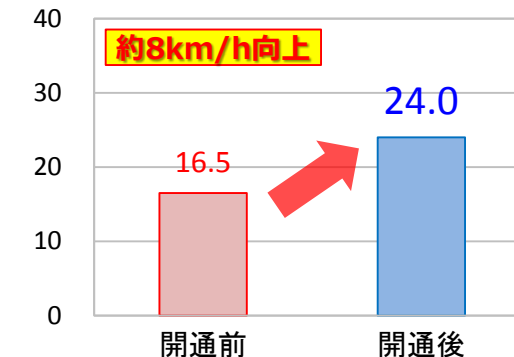
資料：プローブデータ 開通前：H22.9～11平日平均  
開通後：H28.9～11平日平均

▼開通前後の下り方面の状況【写真①】



にかほゆうびんきょくまえ  
仁賀保郵便局前交差点

▼開通前後の下り方面のピーク時進入速度の変化 (km/h)



資料：プローブデータ 開通前：H24.4～6平日平均  
開通後：H28.4～6平日平均

▼開通前後の下り方面の状況【写真②】

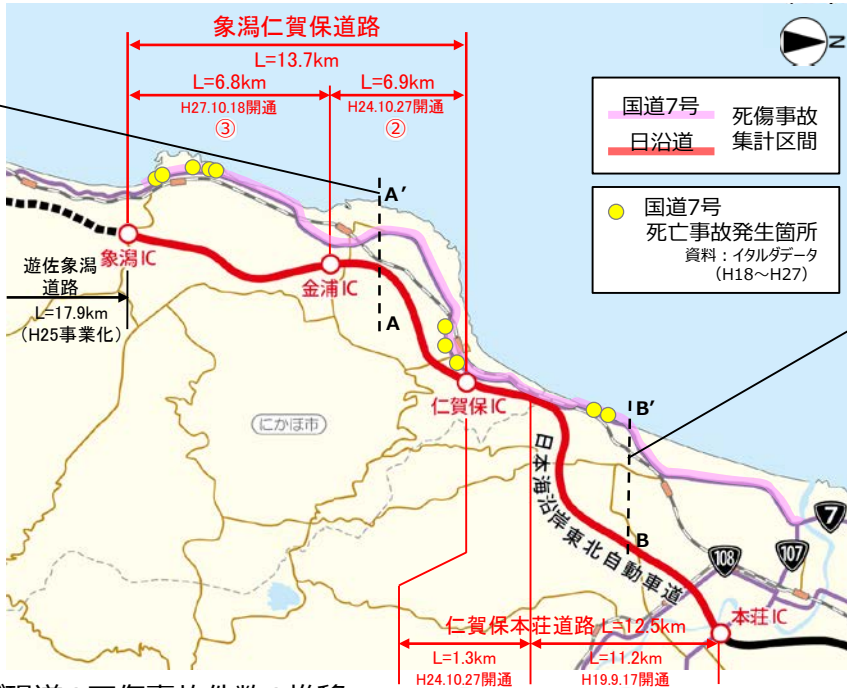
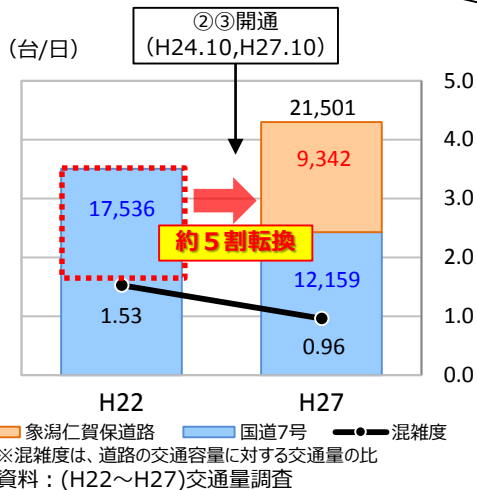


# 3. 事業効果の発現状況 (2) 事故減少

- ◆象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路の開通により交通が日沿道に転換し、現道(国道7号)の交通量は約5割減少。
- ◆その結果、事故件数は開通前後で約7割減少。(76件(国道7号のみ)⇒25件(国道7号+日沿道))
- ◆また、現道区間で開通前多くみられた追突事故が大幅に減少し、人対車両や正面衝突などの危険な事故も減少。

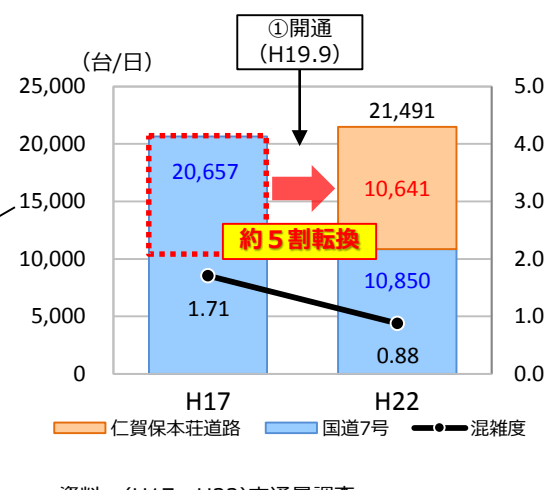
## ▼日沿道と国道7号現道の交通量の推移

【象潟仁賀保道路】(A-A'断面)

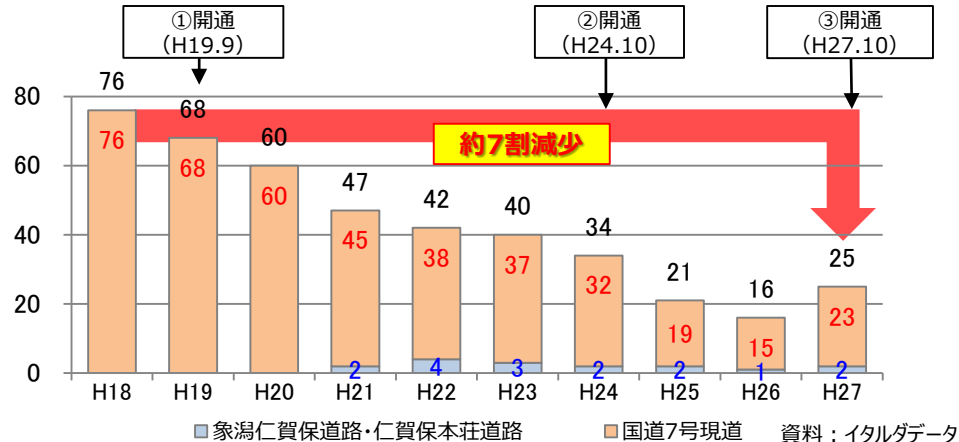


## ▼日沿道と国道7号現道の交通量の推移

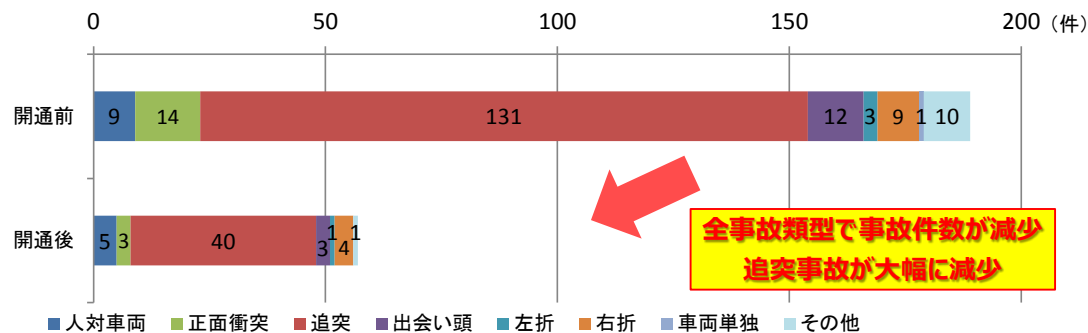
【仁賀保本荘道路】(B-B'断面)



## ▼象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路および現道の死傷事故件数の推移



## ▼象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路の現道の事故類型別事故件数

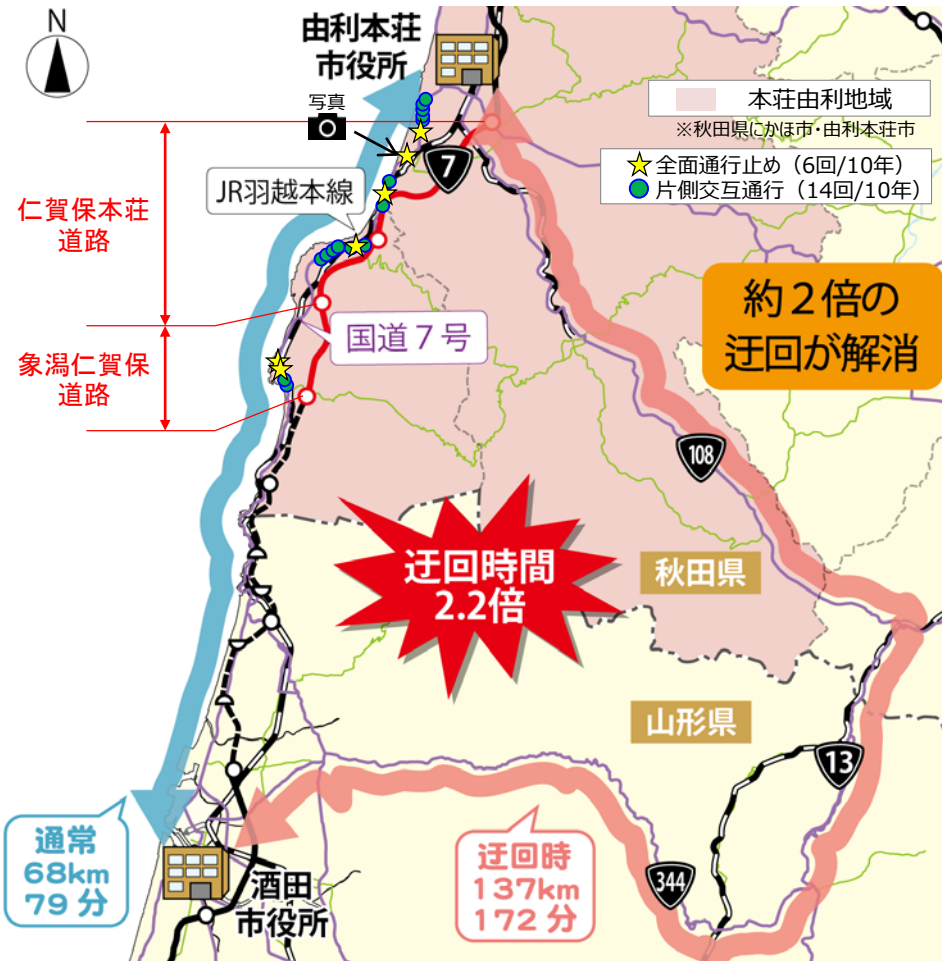


資料：イタルデータ 開通前：H16~H18  
開通後：H25~H27

### 3. 事業効果の発現状況 (3) 国道7号通行止め時の広域迂回解消

- ◆ 国道7号は、津波予想浸水域を通過しており、交通事故による全面通行止めも過去10年で6回発生。
- ◆ 通行止め発生時には、周辺に迂回路が無く、日沿道開通前は広域迂回を強いられていた。(所要時間時間約2倍)
- ◆ 日沿道は津波予想浸水域を100%回避しており、また、現道(国道7号)とのダブルネットワークを形成。
- ◆ 象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路の開通により、災害に強く信頼性の高い緊急輸送路およびリダンダンシーを確保。

▼ 国道7号分断時の酒田市～由利本荘市間の迂回ルート



※H27全国道路・街路交通情勢調査の旅行速度を用いて算出  
※迂回路は緊急輸送道路に指定されたルート

▼ 過去10年の交通事故による通行規制(全面通行止め)発生状況

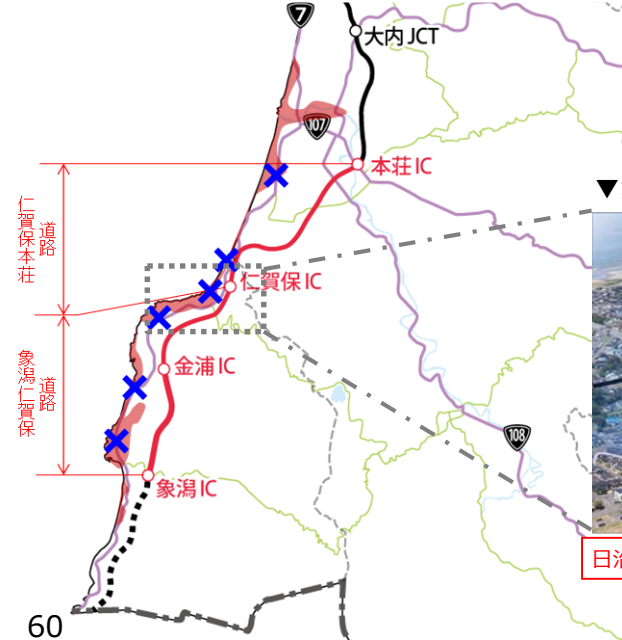
被災年月日	時間
H19.9.5	2:42
H20.11.6	0:25
H22.6.15	1:45
H22.6.21	0:06
H23.9.14	0:13
H24.2.3	0:27
合計	5:38

資料：秋田河川国道事務所

▼ 交通事故による通行止め状況【写真】



▼ 本荘由利地域の道路ネットワークと津波予想浸水域



▼ 津波予想浸水域と国道7号、日沿道



日沿道(県境～岩城)は、津波浸水域を100%回避

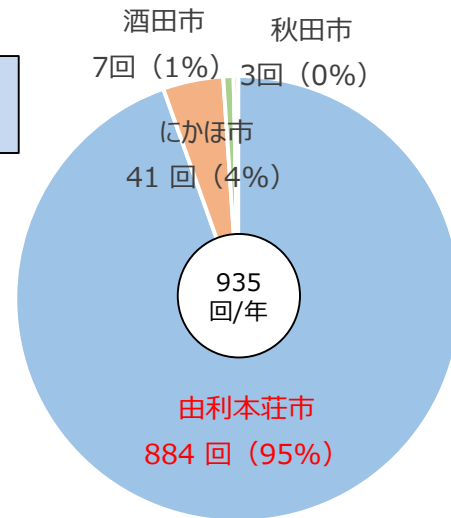
### 3. 事業効果の発現状況（4） 救急医療施設へのアクセス向上

- ◆にかほ市には二次、三次救急医療施設がなく、救急搬送の95%が由利本荘市への搬送。また、重篤患者は、秋田市や隣県・酒田市の第三次救急医療施設へ搬送。（にかほ市～由利本荘市の救急搬送のうち94%が日治道開通済み区間を利用）
- ◆所要時間の短縮、発進停止が発生する信号交差点の回避により、患者への負担が低減され、救急搬送の迅速性・安定性を確保。

▼にかほ市から秋田大学医学部附属病院への救急搬送時間の変化

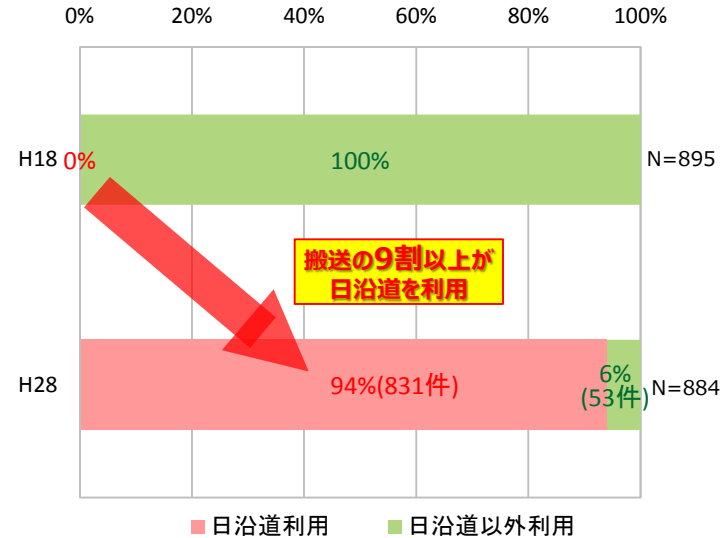


▼にかほ市からの救急搬送先(H28)



資料：にかほ市消防本部資料

▼にかほ市→由利本荘市の救急搬送ルートの変化



▼にかほ市消防本部の声

- 一般道路では、加減速により頭に血が上り血圧が上昇し、患者に負担がかかります。高速道路ができて、**救急搬送の状況は格段に良くなっています。**  
(脳出血患者を搬送している際は、急ブレーキをかけないよう特に気を遣います)
- 命にかかわる現場では1分1秒を争うので、**開通による時間短縮は大い**と思います。(H28ヒアリング結果)



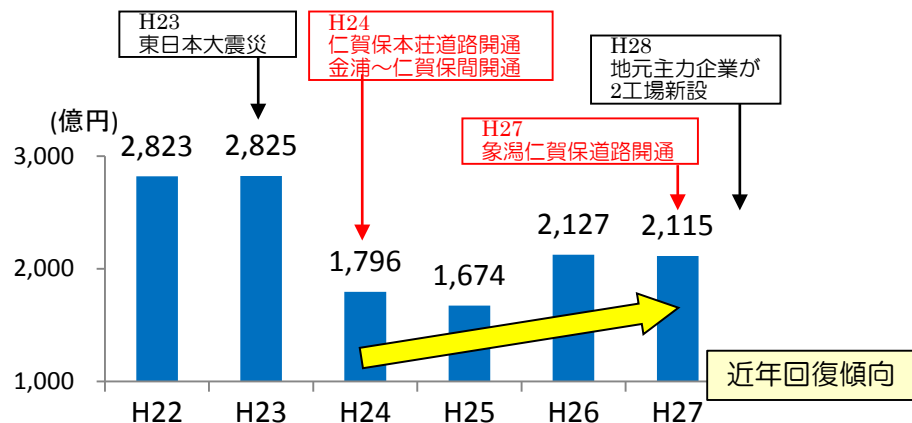
### 3. 事業効果の発現状況（5） 電子部品等の輸送効率化

- ◆秋田県の電子部品・デバイス・電子回路産業は、産業分類別製造品出荷額の4分の1以上を占める主要産業であり、当該産業関連企業が集積する本荘由利地域の出荷額は、県全体の約6割を占める。
- ◆本荘由利地域の関連製造品出荷額は、東日本大震災の影響等から落ち込んだが、日沿道の開通に伴い回復傾向であり、H28には地元主力企業がIC付近に「ものづくり拠点」として2工場を新設。（国内8年ぶり、投資額：約250億円）
- ◆酒田港からの資材の輸送や庄内地域の工場との連携（人的交流、材料の共有）、全国への製品出荷等に日沿道を利用。
- ◆象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路の開通により、輸送効率化（アクセス向上、定時性確保）や地域間連携の促進を支援。

▼地元主力企業の資材搬入・製品出荷ルート



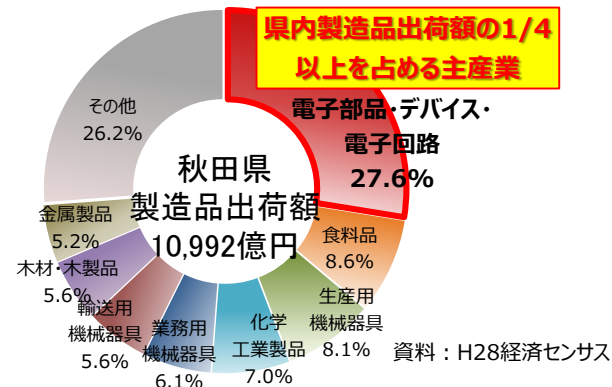
▼本荘由利地域における電子部品・デバイス・電子回路関連製造品出荷額



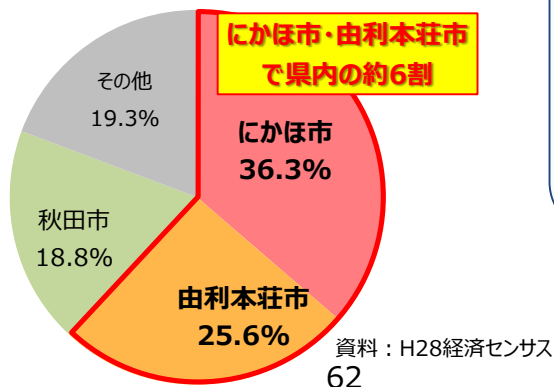
▼地元企業の声

- 酒田港から各工場へ資材等の輸送、全国への製品出荷に国道7号、日沿道を利用しています。
- 近年は人の交流、同じ材料の共有などで庄内工場との繋がりが多いため、日沿道は重要です。
- 入出荷とも時間には非常に厳しいため、輸送時間の信頼性は重要であり、道路整備の直接的な効果は大きいです。（H27,H29ヒアリング結果）

▼秋田県における産業分類別製造品出荷額の割合（H27）

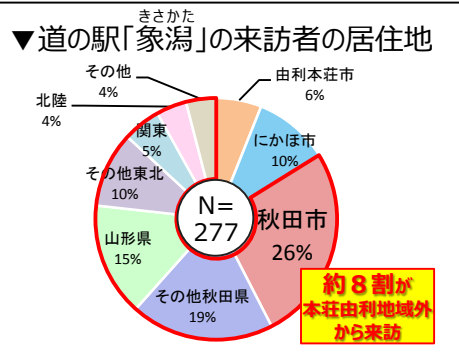
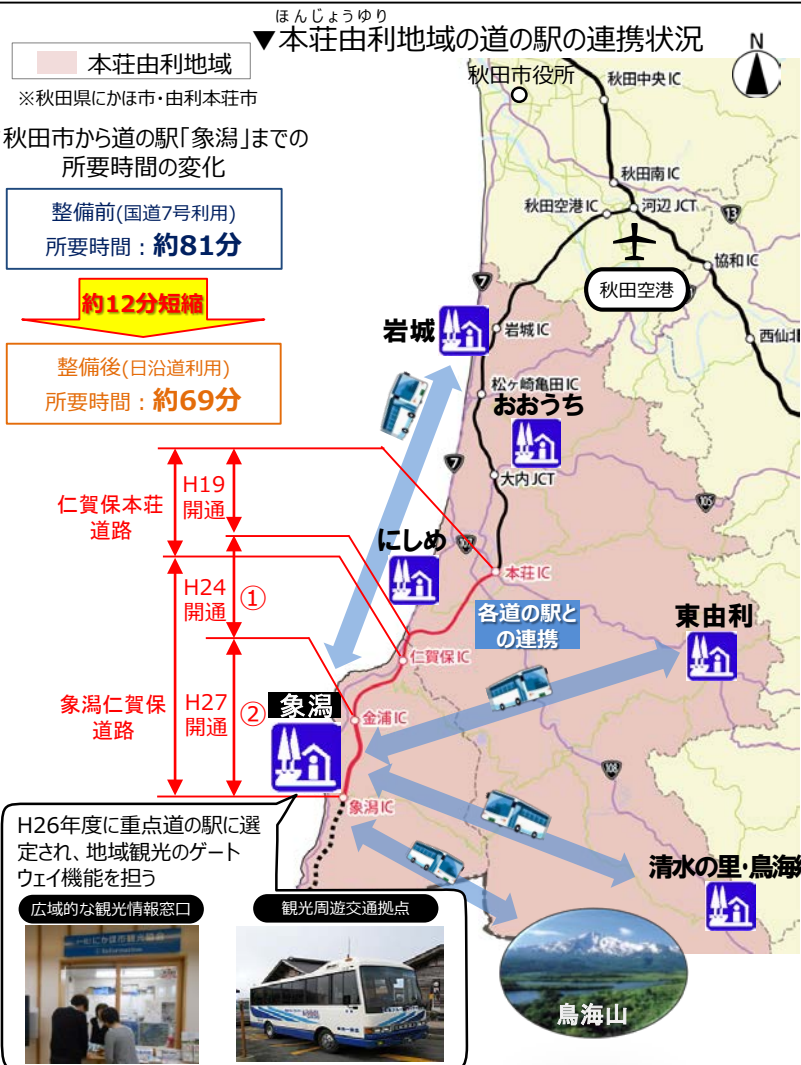


▼秋田県市町村別の電子部品・デバイス・電子回路関連製造品出荷額の割合（H27）

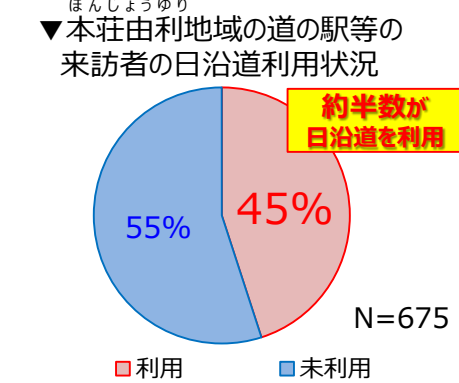


### 3. 事業効果の発現状況（6）周辺道の駅への入込客数増加

- ◆日沿道の開通をきっかけに、重点道の駅「象潟」(H26年選定)を中心とした本荘由利地域の道の駅では、周遊観光情報の提供や周遊交通手段の確保等の連携策による観光活性化の取組を開始。
- ◆象潟仁賀保道路・仁賀保本荘道路の開通により、本荘由利地域の道の駅全体の入り込み客数が増加傾向。  
(道の駅への来訪者の約8割は本荘由利地域外からであり、約半数は日沿道を利用)
- ◆日沿道の開通により、本荘由利地域の道の駅の連携を促進する等、地域独自の観光振興戦略を支援。

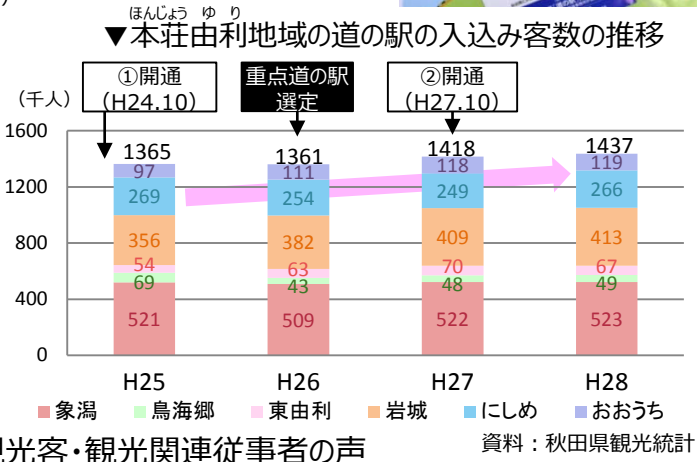


資料: 道の駅「象潟」で実施したアンケート調査結果 (H27)



資料: 道の駅象潟・岩城・おおうち・にしめ、西目PA)で実施したアンケート調査結果

- #### ▼道の駅6駅の連携の取り組み
- 6駅と周辺観光情報を掲載した周遊観光パンフレットの作成
  - 地元食材を活かした道の駅間対抗イベントの開催
  - 本荘由利地域6駅が連携した周遊交通手段の確保
  - 地場産品による特産品の開発(6次産業化)



#### ▼観光客・観光関連従事者の声

- 日沿道を利用したことにより、**移動時間が短縮**し、**周辺観光施設での滞在時間が30分程度増加**しました。(H27観光客アンケート結果)
- 日沿道の開通が一つのきっかけとなり、**道の駅が連携した取り組みを実施**しています。
- 日沿道の開通により、**秋田市や本荘方面からの所要時間が大幅に短縮**し、**来訪客が増加**しています。(H28道の駅「象潟」ヒアリング結果)

## 4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

## 5. 事業実施による環境の変化

—

## 6. 社会経済情勢の変化

- ・人口（にかほ市・由利本荘市）<sup>ゆりほんじょう</sup>：H12事業化当時：12.3万人⇒H29：現在10.4万人（伸び率：0.85）  
（秋田県全体：H12：118.9万人⇒H29：99.5万人（伸び率：0.84））  
（出典：住民基本台帳）
- ・電子部品関連の地元主力企業が本荘由利地域<sup>ほんじょうゆり</sup>へ2工場を新設（H28.10）
- ・道の駅「象潟」<sup>きさかた</sup>が重点道の駅に選定（H27.1）
- ・周辺道路は、H25に遊佐象潟道路（（仮）遊佐鳥海IC～象潟IC）が新規事業化

## 7. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しているが、今後のネットワークの完成後に改めて事後評価を実施し、改善措置の必要性等を検討する。

## 8. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 本事業は一般的な整備効果に加えて地域特有の効果を発現している。同種事業においても地域特有の課題解消や整備効果等について、把握に努める必要がある。
- また、法面防草工に新技術のポリプロピレン製中空積層板を採用する等のコスト縮減を行っており、同種事業への反映に努める必要がある。